

平成23年度 卒業式 答辞

例年になく強い寒波が到来したことを忘れさせてくれるほどの優しい日の光が降り注ぐ今日この頃、私たちは大学生生活最後の日を迎えることとなりました。

本日、私たちのために卒業式を挙げて頂き、誠にありがとうございます。卒業生代表としまして心よりお礼申し上げます。本多学長をはじめ、諸先生方、並びにご来賓の方々から頂きましたお言葉をしっかり受け止め、新しい今後の人生の糧にしていきます。

4年前、私たちはそれぞれ希望と不安を胸に抱きながら、姫路獨協大学に入学した日のことが、つい昨日の出来事のように思い出されます。

唐突かもしれませんが、私は姫路獨協大学で過ごした4年間を振り返ってみると多くの後悔があります。

私は、大学での勉強の目的を単位取得にして、与えられたノルマをこなすかのように毎日休まず講義を受け、先生が黒板に書かれたことをノートにまとめていました。定期試験も無難にこなし、その結果、奨励金も頂き、一見、問題のない大学生活を送ってきました。

しかし、先生からいろいろな資格試験の受験を勧められ勉強しましたが、一度不合格になると「なにくそ」と思うこともなく「しかたない」と諦めてしまい、以後、継続して勉強し、再度挑戦することはありませんでした。

3回生になり、就職ガイダンスにはすべて出席しましたが就職活動は漫然と行っていました。当然うまく行くはずはありません。そんな時、キャリアセンターの職員の方に、企業研究や面接対策について、再び一から手取り足取り教えて頂き、就職を決めることができました。

しかし、就職活動を終えてからはキャリアセンターには一度、報告のために顔を出したくらいで、その後は「アルバイトがあるから」「大学に行けば、いつでも会えるから」「今日は疲れたから明日行こう」などいろいろな理由を付けて自分を正当化し、訪れることはありませんでした。卒業が間近になって久しぶりに大学に行くと、お世話になったキャリアセンターの職員の方が退職されているのを人づてに知りました。

大学での目的を単位取得だけにするのではなく、もっと踏み込んで世の中のことに興味・関心を持ち真剣に勉強していたら、一度の不合格にもめげずに継続して資格試験に挑戦していたら、就職活動が終わってからも積極的にお世話になった先生方のところに頻りに顔を出していたら、もっと今以上に成長でき自分でも満足のいく学生生活を送っていたのではないかと思います。

振り返れば後悔の多い4年間でしたが、それでも、この4年間で自分なりに変わったと思えることがあります。それは、答辞という大役を、自分で何かを変えようと思い引き受けたことです。学生生活の最後に、大きな責任のある答辞を逃げずに引き受けたこと、また、答辞の準備をする過程で、これらの後悔に気づくことができたことは、これからの私の人生の財産になると考えています。

そして、今、社会に出て行こうとしている私には、自分の行動に責任を持つこと、ただ漠然と生きるのではなく、目標を持ち日々成長し続けること、自分をしっかりと持ち、自分らしく明るく楽しい毎日を送ることが必要だということが分かりました。

本学での四年間に体験・経験したものを、それぞれ一人ひとりが礎とし、それぞれが信じた道を悩みながらも突き進み、今後、社会で自分の能力を十分に発揮します。

勉学に取り組むうえで、親身になってご指導下さり、また、日常生活においても適切なアドバイスを与えて下さったゼミの担当の先生をはじめとする諸先生方、日ごろより丁寧に対応して下さいました職員の皆様方に厚くお礼申し上げます。大学生活をともに送り励ましあった友人、これまで温かく見守ってくれた家族、とりわけ両親には感謝しております。ありがとうございました。

最後にご来賓の皆様方、大学の諸先生方、職員の皆様のご健康とご多幸、並びに、姫路獨協大学の益々のご発展を心よりお祈りして答辞といたします。

平成24年3月23日

卒業生総代 経済情報学部 経済情報学科 駒田悠太